

参考様式第4号

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費 調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者 彦坂久伸	經理 責任者 	
旅行期間 30年 7月17日、 30年 7月18日	1泊 2日	視察代表 廣中清介	
旅行先 新大阪丸ビル別館 (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-18-22)			
宿泊地 新大阪ステーションホテル (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-16-6)			
視察・研修 等 目 的 ●未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して in 大阪 ・大人のひきこもり問題を考える (7/17AM) 【10年後の自治体に影響を与える若者支援について】 ・不登校支援における行政支援と民間支援の相違点 (7/17PM) 【不登校支援と家庭教育支援の現場で活躍する支援者から議員に向けての 問題提起】 ・家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは (7/18AM) 【国の有識者会議の委員が解説する最新議論】			
行 程 17日 : 三河田原 → 豊橋 → 新大阪 → 会場 → ホテル 18日 : ホテル → 会場 → 新大阪 → 豊橋 → 三河田原			

経路 三河田原 ⇄ 豊橋 (往復) 1,040 円 (520 円 × 2) (渥美線) 豊橋 ⇄ 新大阪 (往復) 17,220 円 (8,610 円 × 2) (新幹線) 研修費 45,000 円 (1講座 15,000 円) 日当 2,000 円 × 2 日	旅 費						
	鉄道賃		1	8	2	6	0
	車賃						
	航空賃						
	日当			4	0	0	0
	宿泊料		1	2	0	0	0
	研修費		4	5	0	0	0
	合計		7	9	2	6	0

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

政務活動費領収書等貼付用紙

(領収書は重ならないように貼付)

領収書 貼付用 紙No.	
--------------------	--

領収書金額 45,000 円

(1) 研究研修費
2 調査旅費
3 広報費
4 広聴費
5 要請・陳情活動費
6 会議費
7 資料作成費
8 資料購入費
9 事務費
10 その他の経費

領 収 証

田原市議会 市民クラブ 様 30年7月17日
廣中清介

★ ￥45,000

但 7/17・18「未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して」
3講座 研修会受講代として

上記正に領收いたしました

一般社団法人地方議員研究会
〒532-0004
大阪市淀川区西宮原2丁目6-16-639
TEL 06(7878)6297



視察・研修等報告書

30年 7月 31日

田原市議会議長 殿

会派名 市民クラブ
議員名 廣中清介

下記のとおり研修が終了したので報告します。

	会派 代表者	経理 責任者
期 間	平成 30 年 7月 17~18 日	
研 修 先	(社)地方議員研究会	
視 察・研 修 等 の 目 的	セミナー：大人のひきこもり問題と 解決のための合理的な社会投資	
視 察 先 等 面 会 者	講師：水野達朗（ペアレンツキャンプ代表理事）	
研 修 の 成 果	<p>1. 大人のひきこもり問題</p> <p>平成 21 年に厚生労働省が「ひきこもり対策推進事業」を創設し、地域支援センターの設置や支援に携わる人材の育成を始めたが、これ程に我が国のひきこもり問題は深刻化している。「ひきこもり」とは、家族以外との交流がなく、6ヶ月以上続けて自宅にこもっている状態を言い、国内で 54 万人余りがこの状態にあると考えられている。</p> <p>これは単一の疾患ではなく、様々な要因によって社会参加の場面が狭まり、就学や就労に支障をきたしている状態と考えられる。不登校や就労の失敗等がきっかけとなってひきこもりが始まるが、親が現役で元気な間は表面化することが少なく、行政を頼って事態が表面化する頃には深刻化しているケースが多い。ひきこもりの 9 割近くが、経済的に親に頼っていると考えられるが、これにより社会との繋がりが希薄となり、社会的貧困の状態に陥ってしまう。</p> <p>ひきこもりによって引き起こされる課題としては、市民</p>	

の担税力の低下、社会保障制度への悪影響、単身未婚世帯の増加による少子化の進行、生活保護世帯の増加等枚挙にいとまがない。一家心中等、深刻な事態に陥ってしまう可能性もある。

2. ひきこもり解消のための支援

厚生労働省は平成30年度予算で、生活困窮者自立支援における「就労準備支援・ひきこもり支援の充実」として総額13億円を計上した。

これは、複合的な課題を抱え直ちに就職することが困難な生活困窮者等に対し、就労準備支援事業において訪問支援等による早期からの継続的な個別支援を重点的に実施するとともに、就労支援の広域実施の推進等により就労・社会参加の促進を図ることが狙いである。

ひきこもり支援にはコストがかかるが、そのコストに対するリターンは、社会的な影響を考えると、決して小さくない。よって、ひきこもり支援は、合理的な社会投資であると言えるのではないか。

3. 行政支援のポイント

若年層のひきこもりを予防するには、就学期間中の支援を行っている教育委員会との連携がポイントとなる。学籍があるうちから、社会への所属感を失わせないようにすることが重要であろう。

また、訪問型の家庭教育支援を行うことで、学校・学習への参加を促進し、その結果として社会参加へと繋げていくことがポイント。

参考様式第4号

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費 要請・陳情活動	調査旅費 会派 代表者	彦坂久伸	経理 責任者	廣中清介		
旅行期間	30年 7月17日 30年 7月18日	1泊 2日	視察代表	平松昭徳		
旅行先	新大阪丸ビル別館 (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-18-22)					
宿泊地	新大阪ステーションホテル (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-16-6)					
視察・研修等目的	<ul style="list-style-type: none"> ●未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して in 大阪 ・大人のひきこもり問題を考える (7/17AM) 【10年後の自治体に影響を与える若者支援について】 ・不登校支援における行政支援と民間支援の相違点 (7/17PM) 【不登校支援と家庭教育支援の現場で活躍する支援者から議員に向けての問題提起】 ・家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは (7/18AM) 【国の有識者会議の委員が解説する最新議論】 					
行程	<p>17日：三河田原 → 豊橋 → 新大阪 → 会場 → ホテル</p> <p>18日：ホテル → 会場 → 新大阪 → 豊橋 → 三河田原</p>					
経路	旅 費					
三河田原 ⇄ 豊橋 (往復) 1,040 円 (520 円 × 2) (渥美線)	鉄道賃	1	8	2	6	0
豊橋 ⇄ 新大阪 (往復) 17,220 円 (8,610 円 × 2) (新幹線)	車賃					
研修費 45,000 円 (1講座 15,000 円)	航空賃					
日当 2,000 円 × 2 日	日 当		4	0	0	0
	宿泊料	1	2	0	0	0
	研修費	4	5	0	0	0
	合 計	7	9	2	6	0

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

政務活動費領収書等貼付用紙

(領収書は重ならないように貼付)

領収書 貼付用 紙No.	
--------------------	--

領収書金額 45,000 円

①	研究研修費
2	調査旅費
3	広報費
4	広聴費
5	要請・陳情活動費
6	会議費
7	資料作成費
8	資料購入費
9	事務費
10	その他の経費

7月17日、18日

・未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して大阪

領 収 証

田原市議会 市民クラブ 様 30年7月17日
平松昭徳

★ ¥45,000

但 7/17・18 「未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して」
3講座 研修会受講代として

上記正に領收いたしました

一般社団法人地方議員研究会

〒532-0004

大阪市淀川区西宮原2丁目6-16-639

TEL 06 (7878) 6297



視察・研修等報告書

平成 30 年 11 月 1 日

田原市議会議長 殿

会派名 市民クラブ
議員名 平松 昭徳

下記のとおり、視察・研修等が終了したので報告します。

	会派 代表者	彦坂久伸	経理 責任者	廣中清介
期 間	平成 30 年 7 月 17 日（火）～平成 30 年 7 月 18 日（水）			
視察・研修等先	新大阪丸ビル別館 (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島 1-18-22)			
視察・研修等の目的	○未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して			
視察先等 面会者				
概要及び所見	<p>●概要</p> <p>○未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して</p> <p>①大人のひきこもり問題・・・</p> <p>ひきこもりは、単一の要因で引き起こされるのではなく、様々な要因が絡み合って引き起こされる。病気による身体的症状等(生物学的要因)、社会環境、就学時や就職時のつまづき(社会的要因)、精神的なストレスや疲労等(心理的要因)による。ひきこもり状態になると就学、就労経験の不足やコミュニケーションは家族のみになっていき、学籍を離れることにより支援が難しくなり、ひきこもり状態の若者が潜在化、長期化しているのが現状である。</p> <p>ひきこもりが続くことで、社会とのつながりが断たれ、社会的貧困の状態に陥る。</p> <p>8050 問題は、80 代の親と 50 代のひきこもりの子どもが同居している世帯の生活が立ち行かなくなる問題。親が年金受給世帯になり、貯金を切り崩しても生活が維持できなくなり、問題が深刻化している。</p>			

現在、ひきこもりは幅広い世代に広がっており、親が現役世代の間は社会からは見えにくく、長期化、深刻化するほど支援が難しくなる。ひきこもり支援のポイントとしては、早期発見や予防的な対応、10年後、20年後を見据えた中長期的ビジョン、本人の支援だけでなく、家族を含めた総合的な支援を行い健康福祉部局だけでなく教育委員会や民間機関等が協力して取り組んでいくことが必要である。

重要になるのは未然予防で、ひきこもりは不登校とも共通の要因が多くあり、就学期の段階での支援が予防につながる。ひきこもりを予防することで、将来的なリスク軽減や支援に必要な予算を減らすことができる。

② 不登校支援における行政支援と民間支援の相違点・・・

不登校は、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者。不登校で学校を休むことが続くと様々な問題が表れる。一度なってしまうと解決しにくいことが問題である。

行政支援と民間支援の違いについて、行政支援は基本無料で、登校刺激に関しては消極的（見守る支援）。来訪者中心療法が中心でアドバイスが抽象的。欠席扱いにならないシステムを提案する。グレーゾーンの多い精神医療等の医療関連機関へ紹介等がある。一方、民間支援は基本有料で、多種多様な支援があり親子のニーズに応え、アドバイスが具体的。福祉的手法と教育的手法を複合させられ、積極的に関わる支援がおこなわれている。デメリットとしては、親の経済的負担が多いことがあげられる。

不登校の未然防止のという観点から親支援の充実を目指すことにより、不登校やひきこもりの減少が期待されている。

③ 家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは・・・

家庭を取り巻く課題としては、核家族化、地域とのつながりの希薄化、親の孤立化、身近に親としての手本がない、ネットで子育て情報だけが氾濫があげられ、孤立化して誰にも頼れず、悩み戸惑いながら子育てをしている親が多くいる現状がある。そのため、保護者に家庭教育の学習機会情報を提供しサポートするのが家庭教育支援である。

昔の子どもを取り巻く環境は、家庭、学校、地域が支える力が強く相互連携がはかられていたが、現在では、支える力が弱くなり相互連携はかれなくなっている。その隙間を。塾、民間支援機関、行政の支援チームが埋めているのが現状であり、教育の最小単位の家庭の孤立化は危機的状況にある。

また、地域の中で子どもを通じた付き合いが減少し、地域社会のつながりの希薄化が進んでいる。そのために、すべての教育のベースとなる家庭教育を支援することで、地域・学校・家庭それぞれの教育力が再興され、相互連携がはかれるようになる。家庭教育が充実すると集団生活で必要な自立心や社会性を家庭で伸ばした子どもが増える。それにより教師が学科指導等に集中できるようになる。また、親が地域とのつながり方を知り、地域を活用することができる。意識の高い親が増えることで地域の教育力が伸びる。家庭教育支援は地域それぞれの地域資源を活用し、地域課題に適したカタチで取り組むことができる合理的な社会投資と言える。こうした地域課題に即した家庭教育支援体制の構築が望まれている。

●所感

・大人のひきこもり問題は、社会にとってたいへん重要な問題と改めて認識しました。このひきこもりを解決していくためには行政だけでなく、地域社会や民間支援機関の力を合わせ取り組んでいくことが重要であり、現状の支援状況の認識、課題は何かをしっかりと把握したうえで進めていく必要性を感じた。現在、ひきこもりしている人をいかに、就業という出口へ導くか、また、今後、ひきこもりをさせないために、未然予防をどのようにしていくか、ひきこもりは不登校との共通の要因が多くあることから、就学期の段階での支援が大きく予防につながっていくことから、行政にとって予防策を講じることが、ゆくゆくは将来的なリスク低減や支援に必要な予算を減らしていくことにつながっていくことを、今回の研修で理解をした。

参考様式第4号

旅行命令簿・旅費請求書

(研究研修費)、調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者	彦坂久伸	經理 責任者	廣中清介			
旅行期間	30年 7月17日 30年 7月18日	1泊 2日	視察代表	彦坂久伸			
旅行先	新大阪丸ビル別館 (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-18-22)						
宿泊地	新大阪ステーションホテル (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-16-6)						
視察・研修等目的	<ul style="list-style-type: none"> ●未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して in 大阪 ・大人のひきこもり問題を考える (7/17AM) 【10年後の自治体に影響を与える若者支援について】 ・不登校支援における行政支援と民間支援の相違点 (7/17PM) 【不登校支援と家庭教育支援の現場で活躍する支援者から議員に向けての問題提起】 ・家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは (7/18AM) 【国の有識者会議の委員が解説する最新議論】 						
行程	<p>17日：神戸 → 豊橋 → 新大阪 → 会場 → ホテル</p> <p>18日：ホテル → 会場 → 新大阪 → 豊橋 → 神戸</p>						
経路	旅 費						
神戸 ⇄ 豊橋 (往復)	1,040 円 (520 円 × 2)	鉄道賃	1	8	2	6	0
(渥美線)		車賃					
豊橋 ⇄ 新大阪 (往復)	17,220 円 (8,610 円 × 2)	航空賃					
(新幹線)		日当		4	0	0	0
研修費	45,000 円	宿泊料	1	2	0	0	0
	(1講座 15,000 円)	研修費	4	5	0	0	0
日当	2,000 円 × 2 日	合計	7	9	2	6	0

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

参考様式第1号

政務活動費領収書等貼付用紙

(領収書は重ならないように貼付)

領収書貼 付用紙No.	
----------------	--

領収書金額	45,000 円
-------	----------

①	研究研修費
2	調査旅費
3	広報費
4	広聴費
5	要請・陳情活動費
6	会議費
7	資料作成費
8	資料購入費
9	事務費
10	その他の経費

領 収 証

田原市議会 市民クラブ
彦坂久伸 様

30年7月17日

★ ￥45,000

但 7/17・18 「未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して」
3講座 研修会受講代として

上記正に領收いたしました

一般社団法人地方議員研究会

〒532-0004

大阪市淀川区西宮原2丁目6-16-639

TEL 06 (7878) 6297



視察・研修等報告書

平成 30 年 7 月 18 日

田原市議会議長 殿

会派名 市民クラブ
議員名 彦坂 久伸

下記のとおり、視察・研修等が終了したので報告します。

会派 代表者	彦坂久伸	経理 責任者	廣中清介
期 間	平成 30 年 7 月 17 日（火）～18 日（水）		
視察・研修 等先	新大阪丸ビル別館 (大阪市東淀川区東中島 1-18-22 丸ビル別館)		
視察・研修 等の目的	地方議員研究会「未来を見据えた若者支援と親支援の充実 を目指して～in 大阪」		
視察先等 面会者			
概要及び所見	<p>【プログラム I】7 月 17 日（火）講演 講演 I</p> <p>①講師：水野達朗氏 (一般社団法人家庭教育支援センターペアレンツキャンプ代表理事、大阪府大東市教育委員)</p> <p>②演題：「大人の引きこもり問題を考える —10 年後の自治体に影響を与える若者支援について—」</p> <p>③講演要旨</p> <p>④少子高齢化が進み、担税力のある現役世代が減少する中、近年は 39 歳以上の大人の引きこもりが問題となっている。</p> <p>※「8050 問題」：80 歳の親が 50 歳の子どもの面倒をみている。</p> <p>⑤親が現役世代の間は、問題は顕在化しにくいが、将来的には社会基盤を揺るがすほどの問題と言えるだろう。</p> <p>⑥引きこもりは長期化すればするほど、深刻な状態になり支援の難易度も上がる。そこで重要になってくるのが、未然予防＝家庭教育支援である。引きこもりは不登校とも共通の要因が多くあり、就学期の段階での支援が予防につながる。引きこもりを予防することで、将来的なリスク軽減や支援に必要な予算を減らすことができる。</p> <p>⑦予防策＝家庭教育支援は、もっとも事業費（コスト）に対する成果（リターン）が大きい合理的な社会投資であると言える。10 年後、20 年後を見据えた社会投資としての行政支援に取り組んでいく。</p> <p>【所見】</p> <p>引きこもりはその長期化により若者世代に止まらず大人世代</p>		

概要及び所見	<p>にまで拡がってきてている。「8050問題」ともと言われ、将来的には社会基盤を脅かすほどの重篤性をはらんでいる。長期化し深刻度を深めるほどに解決や支援は一層困難になる。そこで早期発見早期対応である。引きこもりは不登校とも共通の要因が多くあり、学齢期の段階での支援や予防が将来的なリスク軽減につながると講師は訴える。今回の講義の核はここにある。田原市の引きこもりの現状はどうだろうか。</p> <p>講演 II</p> <p>①講師：山下真理子氏 (一般社団法人家庭教育支援センターペアレンツキャンプ)</p> <p>②演題：「不登校支援における行政支援と民間支援の相違点 —不登校支援と家庭教育支援の現場で活躍する支援者—」</p> <p>③講演要旨</p> <p>①不登校の未然防止という観点から家庭教育支援の充実を目指すことにより、不登校や引きこもりの減少が期待できる。</p> <p>②親支援の充実を目指す社会投資は、自治体に大きなベネフィット（便益）をもたらす。</p> <p>③講師の所属するペアレンツキャンプの活動紹介が多かった。</p> <p>【所見】</p> <p>講演IIは、講演Iを受けた内容であった。すなわち、家庭教育支援により不登校の未然防止を図るペアレンツキャンプの具体的な活動事例の紹介であって、いささか我田引水的講演であった。しかし、講師が強調した以下2点は記憶にとどめておきたい。</p> <p>①「残念ながら、不登校支援の現場では、本人に適しない支援を行うことにより本来病気ではなかった子が病気になったり、不登校から家庭内暴力などに発展するケースも多く見られたりした。」</p> <p>②「いじめなどによる問題では、本人の精神的なケアを充分に行なうことが真っ先に求められ、本人が動き出すのを『見守る』ことが必要なケースもある。反対に、『見守る』だけでは不登校や家庭内での課題が深刻化してしまっているケースもある。大切なのは、それぞれのケースに適した支援の見極めである。」</p>
--------	--

概要及び所見	<p>【プログラムⅡ】7月18日（水）講演</p> <p>講演Ⅲ</p> <p>①講師：水野達朗氏</p> <p>②演題：「家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは 一国の中の有識者会議の委員が解説する最新議論－」</p> <p>③講演要旨</p> <p>①今の時代、子育て環境が厳しくなり、親が孤独の中で子育ての悩みを抱えることが多くなってきている。</p> <p>②親のニーズが変化し、親に対する学びの場のマッチングが難しくなっている。このような状況から、家庭の状況に合わせて取り組むことができる新しい家庭教育支援モデルが注目されるようになっている。</p> <p>③子どもは社会の宝であるというスローガンは耳慣れしているが、そうであればその宝を育てている親もまた社会の宝である。その親を行政が支えることはこれから社会のあり方に求められているのではないか。</p> <p>④家庭教育支援は地域それぞれの地域資源を活用し、地域課題に適したカタチで取り組むことができる合理的な社会投資と言える。地域独自の家庭教育支援チームを中心に、地域課題に即した家庭教育支援体制が構築されることを期待している。例えば、大阪府「大東モデル」のように。</p> <p>※「大東モデル」：大阪府大東市で行われている、行政による家庭教育支援。大規模な支援体制を構築し、小学校1年生の全家庭に対して訪問型の家庭教育支援を実施している。</p> <p>【所見】</p> <p>第1次安倍内閣の時、教育基本法が改正され新たに第10条「家庭教育」が追加された。そして、それに則っていくつかの自治体において「家庭教育支援条例」制定の動きがある。近隣市町村としては豊橋市で2017年条例制定があった。多分、議会の発議だったと思う。</p> <p>条例制定で家庭教育支援の予算は組みやすくなつたが、教育基本法になぜ「家庭教育」の項目が新設されたのかそのねらいを考える必要がある。各家庭の「家庭教育」のあり方まで規定したり、発達障害はたかも家庭教育に原因があるような印象を受け取る方に抱かせたりするような条文は厳に慎まれなければならないと考える。</p> <p>条例制定について水野氏は、不登校や引きこもり対策として、あくまで予算と家庭教育に対する行政支援ができるようになった利点を強調しているが、個人の家庭のあり方まで行政が介入できないことはあきらかである。</p>
--------	---

参考様式第4号

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費、調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者	新井坂久伸	経理 責任者	廣中清介
旅行期間	30年 7月17日 30年 7月18日	1泊 2日	視察代表	赤尾昌昭
旅行先	新大阪丸ビル別館 (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-18-22)			
宿泊地	新大阪ステーションホテル (〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-16-6)			
視察・研修 等 目 的	<ul style="list-style-type: none"> ●未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して in 大阪 ・大人のひきこもり問題を考える (7/17AM) 【10年後の自治体に影響を与える若者支援について】 ・不登校支援における行政支援と民間支援の相違点 (7/17PM) 【不登校支援と家庭教育支援の現場で活躍する支援者から議員に向けての問題提起】 ・家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは (7/18AM) 【国の有識者会議の委員が解説する最新議論】 			
行 程	<p>渥美線 新幹線 徒歩 徒歩</p> <p>17日：豊島 → 豊橋 → 新大阪 → 会場 → ホテル</p> <p>徒歩 徒歩 新幹線 渥美線</p> <p>18日：ホテル → 会場 → 新大阪 → 豊橋 → 豊島</p>			

経路	旅 費						
	鉄道賃		1	8	1	6	0
	車賃						
	航空賃						
	日 当			4	0	0	0
	宿泊料		1	2	0	0	0
	研修費		4	5	0	0	0
	合 計		7	9	1	6	0
	豊島 ⇄ 豊橋 (往復)	940 円 (470 円 × 2)					
(渥美線)							
豊橋 ⇄ 新大阪 (往復) 17,220 円 (8,610 円 × 2)							
(新幹線)							
研修費 45,000 円							
(1講座 15,000 円)							
日当 2,000 円 × 2 日							

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

政務活動費領収書等貼付用紙

(領収書は重ならないように貼付)

領収書金額	45,000 円
-------	----------

領収書貼付用紙No.	2
------------	---

①	研究研修費
2	調査旅費
3	広報費
4	広聴費
5	要請・陳情活動費
6	会議費
7	資料作成費
8	資料購入費
9	事務費
10	その他の経費

領 収 証

田原市議会 市民クラブ
赤尾昌昭 様 30年7月17日

★ ￥45,000

但 7/17・18 「未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して」

3講座 研修会受講代として

上記正に領収いたしました

一般社団法人地方議員研究会

〒532-0004

大阪市淀川区西宮原2丁目6-16-639

TEL 06(7878)6297



No.2

視察・研修等報告書

平成30年7月20日

田原市議会議長 殿

会派名 市民クラブ

議員名 赤尾 昌昭

下記のとおり、視察・研修等が終了したので報告します。

会派 代表者	彦坂久伸	経理 責任者	広中清介
期 間	平成30年7月17日（火）～18日（水）		
視察・研修等先	大阪府大阪市東淀川区東中島1-18-22 丸ビル別館		
視察・研修等の目的	<ul style="list-style-type: none">・大人のひきこもり問題を考える・・不登校支援における行政支援と民間支援・・家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは・		
視察先等 面会者	<ul style="list-style-type: none">・家庭教育支援センターペアレンツキャンプ代表理事水野達朗・家庭教育支援センターペアレンツキャンプ山下真理子		
概要及び所見	<p>【大人のひきこもり問題を考える】</p> <p>・未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して、福祉と教育への社会投資が自治体にもたらすベネフィットとはと課題提起しながら10年後の自治体に影響を与える若者支援について考察。①ひきこもりの現状と課題②合理的な社会投資としての若者支援③行政支援の現状と課題④議員として掴んでおきたい行政支援のポイントを順次解説しながら考察。</p> <p>〔所見〕</p> <p>少子高齢化が進み担税力のある現役世代が減少する中での大人のひきこもりが増加している現状を改めて認識した。ひきこもりの長期化は解決の困難さも容易に想像ができる。それらを放置することは将来的な負担の増加につながることが理解できた。予算が限られている昨今、コストに対する成果が大きい予防策が最も合理的な社会投資であることが理解できた今</p>		

後10年20年後を見据えて社会投資としての行政支援を取り組むべきと感じた。

【不登校支援における行政支援と民間支援】

・不登校支援と家庭教育支援の現場から実態について報告。議員として取り組むべき課題を提起。①不登校支援における民間支援と行政支援の相違点の解説②積極的に関わる支援についての考察③支援の実例④現場支援者からの問題提起と不登校の真実としての現状紹介

〔所 見〕

不登校や引きこもりの実情や支援の現場が理解できた。行政による支援の価値を如何にあげるか、セミナーの内容を参考にしたい。人の感情が絡む問題だけに複雑になる前に素早い対応が出来るような仕組みを早急に研究・実施できる様に努めるべきと感じた。

【家庭教育支援から取り組む合理的な社会投資とは】

・国の有識者会議の委員として最新の議論の内容を紹介・解説。①予防的な家庭教育支援の現状について紹介②文科省の家庭教育支援に関する検討委員会の要点について紹介と解説。③家庭支援の先進事例の紹介とその内容について解説④合理的な社会投資のために議員に望む課題提起

〔所 見〕

昨今の子育て環境の厳しい状況下、親も孤独な状況子育ての悩みを抱えていることが理解できた。親自身のニーズも変化している中親自身の学びが重要である反面それをどの様に学びの場とマッチングして行くのか課題の大きさを実感。また家庭教育支援モデルがそのまま当てはまるのかは少し疑問があるが、一つの解決策であるとは感じた。家庭教育支援は地域それぞれの地域資源を活用し地域の課題に適した形で取り組むことが合理的との指摘はまさにその通りと思う。地域にはそれぞれ地域独自の文化や風習などある。それらはそこに住む人々は体で感じることができ、共有しやすいものと思う。それらを活用するのは最も合理的であるの言うまでもないこと。まずは田原市の実態など再度見直し田原らしい家庭教育支援について考えていきたいと思う。

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費、調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者	吉取久伸	經理 責任者																																																		
旅行期間	30年 10月10日 30年 10月12日	2泊 3日	視察代表	廣中清介																																																	
旅行先	長岡市 シティホールプラザ アオーレ長岡 (〒940-8501 新潟県長岡市大手通1丁目4番10)																																																				
宿泊地	ホテルルートイン燕三条駅前 (〒955-0092 新潟県三条市大字須頃2丁目19番地) ※旅行先近隣の宿泊施設の確保ができなかったため旅行先より遠方で確保																																																				
視察・研修 等目的	第80回全国都市問題会議																																																				
行程	10月10日(水) 前泊 10月11日(木) 全国都市問題会議参加 10月12日(金) " 豊橋鉄道渥美線 新幹線ひかり 522号 新幹線とき 333号 徒歩 10日: 三河田原駅 → 豊橋駅 → 東京駅 → 燕三条駅 → ホテル 徒歩 J R 弥彦線 J R 信越本線 徒歩 11日: ホテル → 燕三条駅 → 東三条駅 → 長岡駅 → 会場 徒歩 J R 信越本線 J R 弥彦線 徒歩 会場 → 長岡駅 → 東三条駅 → 燕三条駅 → ホテル 徒歩 J R 弥彦線 J R 信越本線 徒歩 12日: ホテル → 燕三条駅 → 東三条駅 → 長岡駅 → 会場 徒歩 新幹線とき 322号 新幹線ひかり 521号 豊橋鉄道渥美線 会場 → 長岡駅 → 東京駅 → 豊橋駅 → 三河田原駅																																																				
経路	旅 費 <table border="1"> <tr> <td>鐵道賃</td> <td></td> <td>3</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>車賃</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>航空賃</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>日当</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>宿泊料</td> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>研修費</td> <td></td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>7</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </table>				鐵道賃		3	6	9	1	0	車賃							航空賃							日当			4	5	0	0	宿泊料		2	4	0	0	0	研修費		1	0	0	0	0	合計		7	5	4	1	0
鐵道賃		3	6	9	1	0																																															
車賃																																																					
航空賃																																																					
日当			4	5	0	0																																															
宿泊料		2	4	0	0	0																																															
研修費		1	0	0	0	0																																															
合計		7	5	4	1	0																																															
※太枠内へ所要事項を記入すること。 経路及び旅費については、事務局にて記入。																																																					

政務活動費領収書等貼付用紙

(領収書は重ならないように貼付)

領収書 貼付用 紙No.	
--------------------	--

領収書金額 (10,000 円)

(1) 研究研修費
2 調査旅費
3 広報費
4 広聴費
5 要請・陳情活動費
6 会議費
7 資料作成費
8 資料購入費
9 事務費
10 その他の経費

会議参加費領収書

市民クラブ
廣中 清介 様

金 10, 000 円

但、「第80回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成30年10月11日

第80回全国都市問題会議実行委員会

会長 磯田 達伸

第80回全国都市問題会議出張報告書

氏名 廣中清介

出張日	平成30年10月11~12日
出張先	新潟県長岡市
出張目的	第80回全国都市問題会議参加

«参考になったこと»

会議のメインテーマは、「市民協働による公共の拠点づくり」

市民協働における舞台(場所)の必要性と、その作り方について、実感として得るものがあった。

長岡市では、市民との協働によるまちづくりを具体的に推進するため、平成24年6月に「市民協働条例」が制定されている。市民と行政が、お互いの長所を持ち寄り、補い合うことで課題を解決し、まちづくりを進めていくのが「長岡の協働」とのこと。条例を指針として、市民協働センターの運営をはじめとする市民活動を支える様々な支援策が展開されている。

そして、この市民協働センターが位置するのが、隈研吾氏設計の「アオーレ長岡」である。東日本大震災を教訓として、民主的な建築としての小さなエレメントでできた建築が氏の設計のルールとされ、動物が身近にある「小さなエレメント」を拾い集めてきて巣を作るよう、「小さな場所」の「小さなエレメント」で誰もが巣を作れる状態が理想だと考えられた。かつて建築は巨大で異物感があることが大事だったとのことだが、東日本大震災を経た日本では逆に、その場所にどう溶け込むか、その場所とどう繋ぐかが建築のテーマとなっているようである。アオーレには、まちとスムーズに繋がり、まちと一体化する、まちと同じ高さの土間の入り口があり、小さなエレメントとしての木材が効果的に使われている。市民協働とは、同じ高さで繋がること。この同じ高さの舞台(場所)こそ、市民協働を加速させる原動力となっているように感じた。

«参加後の所感»

アオーレ長岡は、JR長岡駅と空中回廊で繋がれている。それもビルの間を縫って、空中回廊が延びているのである。これには正直驚いたが、雪国新潟ならではであろうし、来訪者にとって道に迷う心配が全くなく、アクセスが大変に良い。おもてなし感十分である。

この「おもてなし感」の演出こそが、田原市にとって大変重要なテーマであると、到着してすぐに実感した次第である。

上にも書いたが、アオーレ長岡は、壁を感じさせない、ホスピタリティに溢れた施設である。何と市議会議場もグラウンドレベルにあって、しかもガラス張りである。こういう施設全体が市民協働の舞台として活用されているところに、長岡の市民協働の底力、本気度を見た。田原市も大いに学ばなければならない。

今回最も聞きたかったのは、隈研吾氏の話であったが、氏デザインのアオーレを見て、氏のデザイン哲学を聞いて、まちづくりあるいは協働の舞台が、如何に市民の近くになければならないかを実感できた。

隈氏が唱える「Walkal City」の実現が、田原市にとっても急務である。

参考様式第4号

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費 調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者 彦坂久伸	經理 責任者 廣中清介				
旅行期間 30年 10月10日 30年 10月12日	2泊 3日	視察代表 平松昭徳				
旅行先 長岡市- シティホールプラザ アオーレ長岡 (〒940-8501 新潟県長岡市大手通1丁目4番10)						
宿泊地 ホテルルートイン燕三条駅前 (〒955-0092 新潟県三条市大字須頃2丁目19番地) ※旅行先近隣の宿泊施設の確保ができなかったため旅行先より遠方で確保						
視察・研修 等目的 第80回全国都市問題会議						
行程 10月10日(水) 前泊 10月11日(木) 全国都市問題会議参加 10月12日(金) 豊橋鉄道渥美線 新幹線ひかり 522号 新幹線とき 333号 徒歩 10日: 三河田原駅 → 豊橋駅 → 東京駅 → 燕三条駅 → ホテル 徒歩 J R弥彦線 J R信越本線 徒歩 11日: ホテル → 燕三条駅 → 東三条駅 → 長岡駅 → 会場 徒歩 J R信越本線 J R弥彦線 徒歩 会場 → 長岡駅 → 東三条駅 → 燕三条駅 → ホテル 徒歩 J R弥彦線 J R信越本線 徒歩 12日: ホテル → 燕三条駅 → 東三条駅 → 長岡駅 → 会場 徒歩 新幹線とき 322号 新幹線ひかり 521号 豊橋鉄道渥美線 会場 → 長岡駅 → 東京駅 → 豊橋駅 → 三河田原駅						
経路 三河田原 ⇄ 豊橋 1,040円 (520円×2) 豊橋 → 燕三条 17,350円 (新幹線特急・指定席) 燕三条 ⇄ 長岡 1,500円 (J R 500円×3) (10/11 往復、10/12 ホテルから会場まで) 長岡 → 豊橋 17,020円 (新幹線特急・指定席) 日当 4,500円 (2,000円×2日、500円×1日) 研修費 10,000円	旅 費					
	鉄道賃	3	6	9	1	0
	車賃					
	航空賃					
	日当		4	5	0	0
	宿泊料	2	4	0	0	0
	研修費	1	0	0	0	0
	合計	7	5	4	1	0

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

政務活動費領収書等貼付用紙
(領収書は重ならないように貼付)

領収書 貼付用 紙No	
-------------------	--

領収書金額 10,000 円

<input checked="" type="checkbox"/>	研究研修費
2	調査旅費
3	広報費
4	広聴費
5	要請・陳情活動費
6	会議費
7	資料作成費
8	資料購入費
9	事務費
10	その他の経費

10月11日～12日 第80回全国都市問題会議

会議参加費領収書

田原市議会

市民クラブ（平松昭徳）様

金 10,000 円

但、「第80回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成30年10月11日

第80回全国都市問題会議実行委員会

会長 磯田 達伸

視察・研修等報告書

平成30年11月1日

田原市議会議長 殿

会派名 市民クラブ

議員名 平松 昭徳

下記のとおり、視察・研修等が終了したので報告します。

	会派 代表者	彦坂久伸	經理 責任者	廣中清介
期 間	平成30年10月11日(木)～平成30年10月12日(金)			
視察・研修等先	アオーレ長岡 (新潟県長岡市 シティーホールプラザ)			
視察・研修等の目的	第80回 全国都市問題会議			
視察先等 面会者				
概要及び所見	<p>概要</p> <p>【1日目】</p> <p>○市民協働による公共の拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・基調講演 地方分権へのまなざし (講演者:東京大学 本郷和人教授) <p>江戸時代においては、それぞれの藩、それぞれの地域で教育があり、英才が育てられた。黒船が生み出した「明治維新」は世襲に囚われず、才能を登用していた。「立身出世」をよしとし、各地の英才が東京に集まった。万世一系の天皇を核とする、強力な中央集権が図られ、列強に對抗する。明治の達成は高く評価するとして、それは3090万人の犠牲を出した、太平洋戦争に直線的に結びつくのかどうか。過度な受験秀才の重用をどう捉えるか。日本の歴史で「黒船」が来ないと弛緩する。たまに「黒船」が来襲すると変革を志す。現代の「黒船」はなにか。人口減少ではないか。今こそ、明治の中央集権とは逆に、地方の自治権を強く後押しするべきではないか。地方からのボトムアップこそが、新しい日本を支</p>			

えていく。

・主報告・・・長岡市の市民協働

(新潟県長岡市長 磯田達伸氏)

長岡の協働は、市民と行政がお互いの長所を持ち寄り、補い合うことで課題を解決し、まちづくりを進める。市民活動の場として「アオーレ長岡」があり、市役所本庁舎を移転したものである。29年度実績は施設全体の稼働率は84.9%。オープンから6年間の累計来場者数130.1万人。市民の自由な発想による活動の場となっている。長岡市の人づくりと未来への投資として、若者が活躍できるまちづくりを進めため、地方創生の中心は将来を担う若者とし、「若者定着」「子育て」「教育」「働く」「交流」「安全安心」「連携」の7つの戦略の推進により人口減少に歯止めをかける。

・一般報告・・・市民と対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント (三重県津市長 前葉泰幸氏)

大規模公共施設それが直面した課題を解決し第三セクターの経営問題を公共施設マネジメントの手法を使い乗り越え、地域住民の関心の高いテーマである文教施設の統合を知恵を絞りやり遂げた。公共施設の姿を決めるのは市民であるので、市民の思いを把握し、その願いをかなえる公共施設マネジメントを実現に向けて取り組んでいく。

・一般報告・・・場所の時代

(建築家・東京大学教授 隅研吾氏)

経済の波を超越できる建築とは、徹底的に場所にこだわって設計する建築。その場所でしか手に入らない材料を使い、場所を熟知した職人の手を使い、その地の気候、環境と調和し、人々が本当に必要としている建築をつくるということ。これは地域経済の強化にもつながる。「物」と「国家」を枠組みとした工業化の時代はさり、「場所」を主役とする脱工業化社会に生きている。都市中心主義とは、技術、文化、経済、すべてが、都市という中心から地方へと流れることである。地方は都市に隸属し、収奪され、破壊されていく。

建築の「小さなエレメント」と「大きなエレメント」について、コンクリートは「大きなエレメント」最初はドロドロとした液体だが、それが一度固まってしまったら、とてもなく大きくて重たい固まりになってしまい、切り分けることも、分解することもできない。逆に木材やレンガ造りのような「小さなエレメント」でできた建築は、一人の手で組み上げることも安易で、再び分解するのも簡単である。「小さなエレメント」でできた建築は、民主的である。草の根的で、トップダ

ウンでなくボトムアップでできた建築である。動物が身近な小さなエレメントを拾い集めきて巣をつくるように、「小さな場所」の「小さなエレメント」で誰もが巣を作れる状態が理想である。

【2日目】

○パネルディスカッション

- ・テーマ：市民協働による公共の拠点づくり
- ・コーディネーター：明治大学教授 牛山久仁彦氏
パネリスト：東京理科大学教授 伊藤香織氏。NPO法人子育てひろば理事長 奥山千鶴子氏。長岡市国際交流センターセンター長 羽賀友信氏。埼玉県和光市長 松本武洋氏。高知県須崎市長 楠瀬耕作氏。
- ・かつて各地に存在した共同体では、住民同士が協力して地域の課題に取り組んでいた。その後、社会の変化に伴い、共同体は弱体化していったが、その一方で、近年、市民の能力や自己実現に対する意欲を背景に、市民活動が活発化している。市民は、自発的かつ能動的に手を携えて地域社会の課題に取り組むようになった。

市民と行政または市民同士が、お互いの長所や市民活動の自由・自発性と行政活動の公平性を持ち寄り、短所を補い合うことで課題を解決し、魅力的なまちづくりを進めていくことが目指されている。市民が他の市民や行政と自発的に結びつき、つながろうとするのであれば、それにふさわしい場のあり方が必要であり、こうした市民協働を実践する場を「公共の拠点」と呼び、公共施設や民間施設という従来の概念を越え、市民の創意工夫によって育まれる、地域社会の活動の場となる。

●所感

今回の会議の場所「アオーレ長岡」は、まさしく長岡市にとっての「公共の拠点」になっていると感じた。屋根つき広場「ナカドマ」、アリーナ、市民交流スペース、市役所、議会などの機能が一体に溶け合う複合施設になっていた。新幹線の長岡駅を降りて、外に出ることなくこの施設まで行くことができ市民の誰もが立ち入るやすい、まさしく公共の拠点になっていた。

超高齢社会になり高齢者人口は増えてくるが、市民活動を活性化する観点からは、会社を定年退職した人や家庭で子育てがなどにめどがたった人は、自由な時間が確保できるようになりため、市民活動に参加する人の数が増加し、高齢者の知識や技術を積極的に活かすことが考えられると言っていた

がなるほどと感じた。

まちづくりやNPO活動の担い手となる「地域公共人材」の養成は必要であるため、自治体側にも人材養成のための施策が求められている。また、NPO法人は、行政は、行政の弱点となりがちな意思決定の速さや柔軟性、機動性を備えて、利益誘導よりも社会的問題の解決に根差したミッションの達成を優先する傾向にある。NPO法人は、行政や民間事業者と並び、公共性の高い業務の第3の人担い手として期待されている。その他、法人格を持たない市民による任意団体も同様の性格を有していることから、公共の拠点づくりを進めようえで、これらの育成が求められていることが重要だと感じました。

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費、調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者	彦坂久伸	経理 責任者	廣中清介																																										
旅行期間	30年 10月10日 30年 10月12日	2泊 3日	視察代表	彦坂久伸																																										
旅行先	長岡市 シティホールプラザ アオーレ長岡 (〒940-8501 新潟県長岡市大手町1丁目4番10)																																													
宿泊地	ホテルルートイン燕三条駅前 (〒955-0092 新潟県三条市大字須頃2丁目19番地) ※旅行先近隣の宿泊施設の確保ができなかったため旅行先より遠方で確保																																													
視察・研修 等目的	第80回全国都市問題会議																																													
行程	10月10日(水) 前泊 10月11日(木) 全国都市問題会議参加 10月12日(金) 豊橋鉄道渥美線 新幹線ひかり522号 新幹線とき333号 徒歩 10日: 神戸駅 → 豊橋駅 → 東京駅 → 燕三条駅 → ホテル 徒歩 J R 弥彦線 J R 信越本線 徒歩 11日: ホテル → 燕三条駅 → 東三条駅 → 長岡駅 → 会場 徒歩 J R 信越本線 J R 弥彦線 徒歩 会場 → 長岡駅 → 東三条駅 → 燕三条駅 → ホテル 徒歩 J R 弥彦線 J R 信越本線 徒歩 12日: ホテル → 燕三条駅 → 東三条駅 → 長岡駅 → 会場 徒歩 新幹線とき322号 新幹線ひかり521号 豊橋鉄道渥美線 会場 → 長岡駅 → 東京駅 → 豊橋駅 → 豊島駅																																													
経路	旅 費 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>鉄道賃</th> <th>3</th> <th>6</th> <th>8</th> <th>6</th> <th>0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>車賃</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>航空賃</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日当</td><td></td><td></td><td>4</td><td>5</td><td>0</td></tr> <tr><td>宿泊料</td><td>2</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>研修費</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>合計</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>				鉄道賃	3	6	8	6	0	車賃						航空賃						日当			4	5	0	宿泊料	2	4	0	0	0	研修費	1	0	0	0	0	合計	7	5	3	6	0
鉄道賃	3	6	8	6	0																																									
車賃																																														
航空賃																																														
日当			4	5	0																																									
宿泊料	2	4	0	0	0																																									
研修費	1	0	0	0	0																																									
合計	7	5	3	6	0																																									
神戸→豊橋	520円																																													
豊橋→燕三条	17,350円 (新幹線特急・指定席)																																													
燕三条⇒長岡	1,500円 (J R 500円×3)																																													
(10/11 往復、10/12 ホテルから会場まで)																																														
長岡→豊橋	17,020円 (新幹線特急・指定席)																																													
豊橋→豊島	470円																																													
日当	4,500円																																													
(2,000円×2日、500円×1日)																																														
研修費	10,000円																																													

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

参考様式第1号

政務活動費領収書等貼付用紙

(領収書は重ならないように貼付)

領収書貼
付用紙No.

領収書金額	10,000 円
-------	----------

①	研究研修費
2	調査旅費
3	広報費
4	広聴費
5	要請・陳情活動費
6	会議費
7	資料作成費
8	資料購入費
9	事務費
10	その他の経費

会議参加費領収書

市民クラブ
高坂久伸 様

金 10,000 円

但、「第80回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成30年10月//日

第80回全国都市問題会議実行委員会

会長

磯田達伸

平成30年10月13日

田原市議会議長 殿

市民クラブ 彦坂 久伸

視察研修（「第80回全国都市問題会議」）報告

1 日 時	平成30年10月11日（木）・12日（金）
2 場 所	長岡市 シティーホールプラザ アオーレ長岡
3 内 容	全国市長会主催第80回全国都市問題会議「市民協働による公共の拠点づくり」

4 研修報告第1日 10月11日（木）-----

●基調講演 本郷 和人 氏『地方分権へのまなざし』

〈講演メモ〉

①日本は昔から中央集権か？

古代貨幣が流通したのは都周辺のみ、平安時代は地方行政の形骸化。武士の発生。古代、日本は西に向かって開かれた国、玄関は博多。日本海交易、瀬戸内海交易が盛ん

②武士と地方

古代から室町までは、西と東に交互に政権。織田信長、豊臣秀吉によって統一政権

③江戸時代 幕藩体制、300諸侯

④明治維新 万世一系の天皇を核とする強力な中央集権＝列強に対抗

⑤太平洋戦争 受験秀才の暴走を許したのが太平洋戦争

⑥現代の黒船 人口減少こそ現代の黒船。今こそ、明治の中央集権とは逆に地方の自治権を強く後押しすべき。地方からのボトムアップが必要である。

（所見）古代から現代までの歴史の流れの中で中央集権と地方分権を問う内容であった。講師は、「人口減少時代の今こそ、中央集権でなく地方の自治権を強く後押しするボトムアップこそ、新しい日本を支えていくものである」と強調された。

●主報告 磯田 達伸氏（長岡市長）『長岡市の市民協働』

〈報告メモ〉

①長岡市の市民協働

市民と行政または市民同士が、お互いの長所を持ち寄り補い合うことで課題を解決し、まちづくりを進めていくのが「長岡市の市民協働」である。

②市民協働の場「アオーレ長岡」「観光交流拠点における市民協働」

③長岡市の人づくりと未来への投資、若者が活躍できる街づくり、長岡版リノベーションの中核は3大学1高専の特色や専門性に起業家の技術などを融合して新産業の創出と人材育成を図ることである。

（所見）「米百俵」の精神が地下水として、長岡市のまちづくりの底流を脈々と流れている。

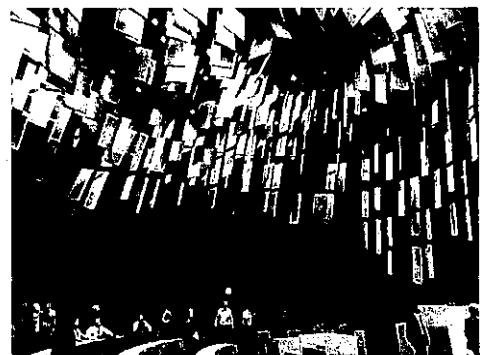
「アオーレ長岡」を見て三河田原駅前のララグランを思い浮かべてしまった。

●一般報告 前葉 泰幸氏（三重県津市長）『市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント』

●一般報告 隅 研吾氏（建築家・東京大学教授）『場所の時代』

森 民夫氏（筑波大学客員教授）『アオーレ長岡の発注者として』

森本 千絵氏（アートディレクター）『アオーレ長岡での市民協働の実践』



「アオーレ長岡」の中のガラス張りの議場
天井からは花火をイメージした無数の木板

（所見）「アオーレ長岡」を見て三河田原駅前のララグランを思い浮かべてしまった。

(感想) 一般報告の中で、国立競技場の設計で有名な隅研吾氏の次の言葉は興味深い。

「徹底的に場所にこだわって設計する建築である。その場所でしか手に入らない材料を使いその地の気候、環境と調和し、人々が本当に必要としている建築を作ると言うことである。これは地域の経済にもつながる。(中略) 私たちは今『場所』を主役とする脱工業社会に生きている。」

【第2日 10月12日(金)】-----

●パネルディスカッション 『市民協働による公共の拠点づくり』

- ・コーディネーター 牛山久仁彦氏 (明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授)
- ・パネリスト 伊藤 香織氏 (東京理科大学理工学部建築学科教授)
- ・〃 奥山千鶴子氏 (NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長)
- ・〃 羽賀 友信氏 (長岡市国際交流センター「地球広場」センター長)
- ・〃 松本 武洋氏 (埼玉県和光市長)
- ・〃 楠瀬 耕作氏 (高知県須崎市長)

〈メモ〉

①「都市に対する市民の誇り」をシビックプライドという。単なる町自慢や地元への親近感ではない。シビックプライドは当事者意識にもとづく自負心である。このような場のあり方のキーポイントとして、「①まちは可塑的であることがわかる。②未来を重ね合わせられる。

③体験できる。④共有できる。」を挙げている。すなわち、一人ひとりの創造性がまちを変えられるイメージできるような場、俯瞰的なまちと自分の生活を重ねて思い描ける場、理解するだけでなく何らかの形で体験できる場、他者の考えを知り意見を交換できる場であることが求められる。(伊藤)

②子どもが生まれたことで地域に関心が深まるこの時期を逃さず、子育て家庭を地域に温かく受け容れていくこと、また子どもに関わることで地域の将来に思いを馳せることのできる市民を増やしていくことが、サスティバルな地域づくりにつながっていく。(奥山)

③屋根付きナカドマを備えたアオーレ長岡ができたことにより、天候に左右されず通年で活動することが可能になった。(羽賀)

④東京近郊都市では、従来の自治会やコミュニティからこぼれてしまいかねない市民が増加。市民協働の拠点づくりは、協働による市民の地域への愛着を形成し、地域へのロイヤリティを高める重要な役割を担っている。(松本)

⑤少子高齢化及び定住人口の減少が進む中、地方都市の希望は、地域資源とそこに暮らす人材によるマッチアップ(結合)にあると考えている。(楠瀬)



開会式(参加者約2,000人)

◆次期開催市 鹿児島県霧島市

参考様式第4号

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費、調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者	彦坂久伸	經理 責任者	廣中清介			
旅行期間	30年 10月10日 30年 10月12日	2泊 3日	視察代表	赤尾昌昭			
旅行先	長岡市 シティホールプラザ アオーレ長岡、 (〒940-8501 新潟県長岡市大手通1丁目4番10)						
宿泊地	ホテルルートイン燕三条駅前 (〒955-0092 新潟県三条市大字須頃2丁目19番地) ※旅行先近隣の宿泊施設の確保ができなかったため旅行先より遠方で確保						
視察・研修 等目的	第80回全国都市問題会議						
行程	10月10日(水) 前泊 10月11日(木) 全国都市問題会議参加 10月12日(金) リ						
	豊橋鉄道渥美線	新幹線ひかり 522号	新幹線とき 333号	徒歩			
	10日: 豊島駅 → 豊橋駅 → 東京駅 → 燕三条駅 → ホテル						
	徒歩	JR弥彦線	JR信越本線	徒歩			
	11日: ホテル → 燕三条駅 → 東三条駅 → 長岡駅 → 会場						
	徒歩	JR信越本線	JR弥彦線	徒歩			
	会場 → 長岡駅 → 東三条駅 → 燕三条駅 → ホテル						
徒歩	JR弥彦線	JR信越本線	徒歩				
12日: ホテル → 燕三条駅 → 東三条駅 → 長岡駅 → 会場							
徒歩	新幹線とき 322号	新幹線ひかり 521号	豊橋鉄道渥美線				
会場 → 長岡駅 → 東京駅 → 豊橋駅 → 豊島駅							
経路 <small>豊島</small> 三河田原 ⇄ 豊橋 940円 (470円×2) 豊橋 → 燕三条 17,350円 (新幹線特急・指定席) 燕三条 ⇄ 長岡 1,500円 (JR 500円×3) (10/11 往復、10/12 ホテルから会場まで) 長岡 → 豊橋 17,020円 (新幹線特急・指定席) 日当 4,500円 (2,000円×2日、500円×1日) 研修費 10,000円	旅費						
	鉄道賃	3	6	8	1	0	
	車賃						
	航空賃						
	日当			4	5	0	0
	宿泊料	2	4	0	0	0	
	研修費	1	0	0	0	0	
	合計	7	5	3	1	0	

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

政務活動費領収書等貼付用紙

(領収書は重ならないように貼付)

領収書金額	10,000 円
-------	----------

領収書貼付用紙No.	△
------------	---

1	研究研修費
2	調査旅費
3	広報費
4	広聴費
5	要請・陳情活動費
6	会議費
7	資料作成費
8	資料購入費
9	事務費
10	その他の経費

会議参加費領収書

市民クラブ 赤尾昌昭 様

金 10,000 円

但、「第80回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成30年 10月10日

第80回全国都市問題会議実行委員会

会長 磯田達輔

No.3

視察・研修等報告書

平成30年10月20日

田原市議会議長 殿

会派名 市民クラブ

議員名 赤尾 昌昭

下記のとおり、視察・研修等が終了したので報告します。

	会派 代表者	彦坂久伸	経理 責任者	広中清介
期 間	平成30年10月11日（木）～12日（金）			
視察・研修等先	第80回全国都市問題会議 新潟県長岡市 シティーホールプラザ アオレー長岡			
視察・研修等の目的	市民協働による公共の拠点づくり			
視察先等 面会者				
概要及び所見	<p>【概要】</p> <p>基調講演：東京大学史料編纂所教授本郷和人氏から地方分権のまなざしと題し、江戸時代の日本の例を示しながら現代との地方行政の違いを考察。主報告：長岡市長磯田達伸氏から長岡市の取り組み紹介。一般報告：三重県津市長前葉泰幸氏から市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネージメントと題し、津市の取り組みを紹介。また、場所の時代と題し建築家で東京大学教授の隈研吾氏から場所の時代と題し、3.11を契機に都市主義（東京中心主義）が終わり小さなエレメントによる建築の再認識の重要性や大きな建築は場所とのつながりを目指すべきとの主張から大きな建築を目指することで場所が戻ってくる（再認識）されることを主張された。パネルディスカッション：テーマは市民協働の公共の拠点づくり。明治大学教授の牛山久仁彦氏のコーディネイトで議論。公共の拠点をどのように作る課題、また誰が作るかなどの担い手作りの重要性とそ</p>			

れに対し行政がどう役割を果たすかを議論。

[所 見]

アオーレ長岡は市役所の一部ではあるが市民の様々な活動の拠点として市民に親しまれている。建築家隈研吾氏の設計で外から建物の中までは仕切りらしきものがなく昔ながらの土間を意識した作りとなり、市民は市役所の一部と言った意識もなく町歩きの延長として自然にその場に行き着いていると言った感じで市民は何の抵抗もなく自然にそこに集まっていると思われる。そこで自然に人同士の集まりができる協働の仕組みができるのではないかと思われる。この様に何々の場所と言ったこれまでの垣根がないところが存在することは非常にうらまやましい限りである。今回の会議では様々な活動の拠点の様子が紹介されたが、それぞれ何らかの目的を意識して準備されたものであり、それなりの意識や目的を持った人々が集まるもので一般市民にとっては見えない垣根の存在を意識せざるを得ないと思う。今後何らかの拠点整備を行う際、見えない垣根を作らない工夫をし自然な人の集まりができることで市民の協働を後押ししたいものである。

参考様式第4号

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費、調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者	彦坂久伸	經理 責任者	廣中清介
旅行期間	30年 11月14日 30年 11月15日	1泊 2日	視察代表	平松昭徳
旅行先	宇都宮市文化会館 (〒320-8570 栃木県宇都宮市明保野町7-66)			
宿泊地	ホテル サンシャイン宇都宮 (〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷2-3-3)			
視察・研修 等 目 的	第13回 全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮			
行程	11月14日(水) 渥美線 新幹線 新幹線 無料シャトルバス 無料シャトルバス 徒歩 三河田原 → 豊橋 → 東京 → 宇都宮 → 会場 → 宇都宮 → 293.6km 109.5km ホテル 11月15日(木) 徒歩 無料シャトルバス 無料シャトルバス 新幹線 新幹線 渥美線 ホテル → 宇都宮 → 会場 → 宇都宮 → 東京 → 豊橋 → 109.5km 293.6km 三河田原			

経路	旅 費						
	鉄道賃		2	7	5	4	0
	豊橋 ⇄ 宇都宮	26,500円 (新幹線特急・指定)					
	宇都宮 ⇄ 会場	(無料シャトルバス)					
	日当	2,000円 × 2日			4	0	0
	宿泊料	12,000円		1	2	0	0
	研修費	7,000円			7	0	0
	合計		5	0	5	4	0

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

政務活動費領収書等貼付用紙
(領収書は重ならないように貼付)

領収書 貼付用 紙No.	
--------------------	--

領収書金額	7,000 円
-------	---------

<input checked="" type="checkbox"/>	研究研修費
2	調査旅費
3	広報費
4	広聴費
5	要請・陳情活動費
6	会議費
7	資料作成費
8	資料購入費
9	事務費
10	その他の経費

0102

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

平成30年11月22日

田原市議会 平松 昭徳 様

参加費領収書

第13回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

委員長 山田四郎之介

東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

参加代金として

平成30年11月14日・15日開催 (宇都宮市)

視察・研修等報告書

平成30年11月¹⁹日

田原市議会議長 殿

会派名 市民クラブ
議員名 平松 昭徳

下記のとおり、視察・研修等が終了したので報告します。

会派 代表者	彦坂久伸	經理 責任者	廣中清介
期 間	平成30年11月14日（水）～平成30年11月15日（木）		
視察・研修等先	宇都宮市文化会館 (栃木県宇都宮市明保野町7-66)		
視察・研修等の目的	全国市議会議長会 研究フォーラム		
視察先等 面会者			
概要及び所見	<p>概要</p> <p>【1日目】</p> <p>■基調講演・・・中央大学法学部教授 宮本太郎氏 「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を超える自治体のかたち</p> <p>○自治体が直面する2040年問題 [重量挙げと漏斗化の日本]</p> <ul style="list-style-type: none">・日本人は長生きする時代になったが、幸福感が広がらない。 ① 困窮化・・・現在86万人の65歳以上の生活保護受給者が2040年には200万人を超える見通しがある。② 孤立化・・・高齢単身男性は会話頻度も少ない（過去のプライドを引きずり、廻りが引いてしまう）・現役世代も力が発揮できない。 進学のコストとリスク→雇用不安定化→（非婚・単身化）、(出生率の低下・現役世代減少)・「支える」「支えられる」の二分法では「重量挙げ」社会へ現役世代と高齢者世代比が10対1から1.5対1に、実質的には0.5対1? だから「肩車」というより「重量挙げ」		

になる。

・漏斗化する日本

若年層が地方から東京へ、東京の人口予想は、2015年1,351万人→2040年1,367万人になる。(ただし出生率最低、高齢人口90万人増のなかでの社会増)

地方圏は、高齢化はピークを過ぎるが現役世代がさらなる減少。東京圏は、現役世代の流入もあり人口規模維持するが出生率低く、さらなる高齢化。

・「ピンチをチャンスに」「チャンスを現実に」

人口減少社会がもたらすチャンス。困窮・孤立を超えて皆が人財のまちへ ⇄ 移住しなくとも、ずっと出番のあるまちへ ⇄ 必要縁、新しい家族縁、地縁でコンパクトな拠点を。今後、ピンチをチャンスに変えた自治体とピンチ飲み込まれた自治体に分かれる。チャンスを現実化するために政治の役割は大きい。

・これまでの地域福祉は、働けない人を保護することだったが、これから地域福祉は、困難を抱えた人を元気にすることになる。

・定年後の地域デビュー支援が大事になる。「年金兼業型」就業、「ずっと出番のあるまち」へ広がる可能性がある。「年金兼業型」就業について、農業・林業、技能取得(そば打ち人気がある)、年金、福祉関連等がある。

■パネルディスカッション「議会と住民との関係について」

・コーディネーター：山梨学院大学教授 江藤俊昭氏

・パネリスト：今井照、本田節、神田誠司、小林紀夫氏。

地域が多様化し、地域住民が分断化する時代である。「2025年問題」「2040年問題」がクローズアップされ、超高齢化、低所得者の増加の増加、AIの導入や外国籍住民の増加などが考えられる。まさに「総中間層」といわれた時代とはまったく異なる時代が生まれ、地域住民に明確な亀裂線(富める者とそうでない者)が生じる時代になる。そこには、2つの課題がある。①地域の伝統に基づき新たな価値を創造することが必要になる。そのためには、地域で分断化された住民の意見を集約し統合し地域の発展につなげる必要があり、行政と議会がその役割を担うという課題。②自治体独自では対応できない課題があり行政主導の自治体間連携が考えられる。

住民自治の推進のためにはどのように地域連携に、住民、議会がかかわるかを検討する必要がある。パネルディスカッションでは、こうした課題について議論が行われた。

【2日目】

■課題討議 「議会と住民との関係について」

- ・コーディネーター：山梨学院大学教授 江藤俊昭氏
- ・パネリスト：桑田鉄男久慈市市議会副議長。伊藤健太郎新潟市議会議員、ビアンキンアンソニー犬山市議会議長、道法知江竹原市議会議長

議会改革の1つの集大成である議会基本条例は、全国 800 自治体で制定されている。議会基本条例は従来の議会とは異なる運営を住民に宣言したもので、住民に対するマニフェストとして評価すべきである。しかし、あくまで議会運営という形式に過ぎず、住民からすれば「当然ではないか」「だから何？」とも感想もある。議会が有している役割・権限を十分発揮して、住民福祉の向上につなげる、形式を超えて内容・成果にかかわるように議会改革のステージをあげることが、住民に信頼される議会の近道である。

今回の課題討議では、議会の新たな住民と議会の関係、その動向を確認する目的で、①今後の地域への評価、住民や議会の評価。②新たな議会のあり方、住民との関係。③統一地方選挙を念頭に、地域民主主義の活性化に活用する手法、議員のなり手不足問題等を論点として議論が進められた。

所感

議会活動において、権限の限り機能した機関になるためには、議員間討議の推進、議会の政策立案と提言力向上、市民参加が不可欠であると認識しました。

「議員間討議」：議員同士が議論しないと、議会として物事を決められない。「政策立案・政策提言の力向上」：討議は提案につながらないと、ただのトークショーになってしまう。「市民参加」：議員間討議において議会の提案は、より市民ニーズや希望を反映できるように、市民の意見を吸い上げる場を増やし、市民からいただいた意見を基に議員間討議を行うことが重要になる。また、市民参加の仕組みでは、機会と形を増やし意見聴衆の方法として、市民フリースピーチ、女性議会、オープンドアポリシー、市民との意見交換会、親子議場見学会を実施。出された意見を全議員で協議する。議会として提言をしていく。それにより、市民に「参加すれば、実現できる」という気持ちが芽生え「市民参加」が活発になる。市民の意識が高くなり、選挙の投票率低下、議員のなり手不足などの問題の解決の糸口にもつながる。このことを進めていくべきと感じました。

参考様式第4号

旅行命令簿・旅費請求書

研究研修費、調査旅費 要請・陳情活動	会派 代表者	彦坂久伸	經理 責任者	廣中清介
旅行期間	30年 11月14日 30年 11月15日	1泊 2日	視察代表	赤尾昌郎
旅行先	宇都宮市文化会館 (〒320-8570 栃木県宇都宮市明保野町7-66)			
宿泊地	ホテル サンシャイン宇都宮 (〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷2-3-3)			
視察・研修 等 目 的	第13回 全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮			
行程	11月14日(水) 渥美線 新幹線 無料シャトルバス 無料シャトルバス 徒歩 豊島 → 豊橋 → 東京 → 宇都宮 → 会場 → 宇都宮 → 293.6km 109.5km ホテル 11月15日(木) 徒歩 無料シャトルバス 無料シャトルバス 新幹線 新幹線 渥美線 ホテル → 宇都宮 → 会場 → 宇都宮 → 東京 → 豊橋 → 109.5km 293.6km 豊島			

経路 豊島 ⇄ 豊橋 豊橋 ⇄ 宇都宮 宇都宮 ⇄ 会場 日当 宿泊料 研修費	旅費							
	鉄道賃		2	7	4	4	0	
	車賃							
	航空賃							
	日当			4	0	0	0	
	宿泊料		1	2	0	0	0	
	研修費			7	0	0	0	
	合計		5	0	4	4	0	

※太枠内へ所要事項を記入すること。

経路及び旅費については、事務局にて記入。

政務活動費領収書等貼付用紙

(領収書は重ならないように貼付)

領収書金額	7,000円
-------	--------

領収書 貼付用 紙No.	
--------------------	--

第13回全国市議会議長会研究フォーラム㏌宇都宮

参加費領収書別紙

①	研究研修費
2	調査旅費
3	広報費
4	広聴費
5	要請・陳情活動費
6	会議費
7	資料作成費
8	資料購入費
9	事務費
10	その他の経費

0102

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

平成30年11月22日

田原市議会 赤尾 昌昭 様

参加費領収書

第13回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

委員長 山田 勝

東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

参加代金として

平成30年11月14日・15日開催（宇都宮市）

視察・研修等報告書

平成30年11月20日

田原市議会議長 殿

会派名 市民クラブ

議員名 赤尾 昌昭

下記のとおり、視察・研修等が終了したので報告します。

会派 代表者	彦坂久伸	経理 責任者	廣中清介
期 間	平成30年11月14日（水）～平成30年11月15日（木）		
視察・研修等先	第13回全国市議会議長会研究フォーラム 栃木県宇都宮市 宇都宮市文化会館		
視察・研修等の目的	①「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を越える自治体のかたち ②議会と住民の関係について		
視察先等 面会者			
概要及び所見	【「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を越える自治体のかたち】 中央大学教授宮本太郎氏から自治体が直面する2040年問題、またそのピンチをチャンスにする道筋の解説。困窮と孤立のが深まる中、誰もが人財とされる町への変換として地域共生の仕組みづくりの提案。また、定年後の支援の重要性の説明そしてそれを実現するための新しい家族の縁や地域の縁を作ることの重要性を開設し、今後の高齢化社会に対しこれまで以上に高齢者の活用などが説明された。 [所見] 2040年の超高齢化社会を見据えた時にどの様に高齢者と共生して行くかを改めて認識させられた。定年などで社会から一旦離れる社会とのつながりを戻すことはなかなか難しいのは想像できる。それを行行政が後押しする仕組みは大変重要な		

と思う。高齢者を困窮させることでそのケアのために相当のコストが発生するのは簡単に想像できる。また、社会が明るく元気になるためにも必要であると思もう。日本人の昔ながらに持っていた縁を取り戻す活動を行政として取り組む時代が来たと強く思った。

【パネルディスカッション：議会と住民の関係について】

山梨学院大学大学院教授の江藤俊昭氏をコーディネータにパネルディスカッションを実施。2025年問題、2040年問題の対応として、地域の伝統に基づいた新たな価値の想像や基礎自治体の独自で解決できない課題に対し自治体連携の方策などの2つの課題を議会がどのように取り組むべきかを議論加えて議員のなり手不足などにも言及した議論を展開。

〔所 見〕

自治体連携の議論では様々な方策があることを議論されていましたが、連携を密にするためには地方分権がやはり重要ではないかと思われた。また、最近では道州制などほとんど議論されなくなったり、逆に否定的な意見が多くなって来ているがやはり小さな自治体の連携には限界があると思われ、大きくなくくりの地方分権を実現できる道州制が必要ではないかと考える。また、議会としても個々の自治体での小さな単位で議論していくも決定的な対策に結びつかないのではないかと思もうし、議員としての役割も果たせないのでないかと感じた。広域連携を超えた道州制について再度考えて見たい。

【課題討議：議会と住民の関係について】

久慈市からは議会改革などについて報告。新潟市からは主権者教育の推進プロジェクトについて報告。犬山市からは市民参加と議会機能の向上の取り組みについて報告、竹原市からは女性と議会との関係、「お互いが尊重し認め合う議会に」と題した報告がされた。